

情報発信

すべての子どもたちに、将来の生きる力となる幼児教育をまちぐるみで考え、子育て家庭に発信します。

パンフレット



コラム

家庭にいても「ここすき！」の考えを知ることができ、子どもと過ごす時間がより楽しくなるようなコラムを連載中。市ホームページ、子育てアプリから、ご覧になれます。

●コラム例

「わたしのこと、いっぱいみつめて」「目で見て、触って、舐めて確かめよう」「とりたいけれど、とれないなあ。でもとりたい」「パパ、ママ、だーいすき！」 など

研修会



●関係機関等との懇談会、合同研修、合同研究などを開催

自ら考え判断して行動でき、心豊かにたくましく生きる子ども

国立市では、すべての子どもたちが、将来の夢に向かって成長できる力を身につけてもらいたいと考えています。そのためには、学力(認知能力)だけではなく、粘り強くやりとげようとする力、友だちと協力し合いながらがんばることで得られる共感やコミュニケーション力(非認知能力)を身につけることが大切であるといわれています。

その基礎として、乳幼児期からの保護者や特定の大人との間にしっかりと愛着関係を築くことが大切です。乳幼児期に、こうした「非認知能力」をのばすことが、将来の社会的成功に結びつく大きな力を与えます。

市では、幼児教育推進プロジェクト「ここすき！」を通して、子育て・子育てを応援する取組をはじめます。

0・1・2歳児期は「自分を見つける時期」です。大切なことは、子どもが「ゆっくり」「じっくり」「繰り返し」かわることです。またその時、誰かによって「安心が得られること」「見守られていること」「応えてもらうこと」が必要です。そしてまわりの物に関心を持ち、それを動かしてみてもその物の性質を知っていきます。その上で、他児に出会うこと、他児の動きに興味を持って自らそれをまねてみることはとても重要です。集中して繰り返すこと、そしてその中で違いを感じることも、他児のようにやってみようとする、そうした姿の一つひとつが、その後求められる育ちの姿へとつながっていくのです。この時期の子どもたちにおいて、それぞれのペースで、またそれぞれの興味において、多様なかわりが保障されていることは重要です。国立市「ここすき！」ひろばの取組に関するアンケートからは、他児の様子をよく観察し、まねていく様子がみられたことがうかがえました。こうした街の中での出会いを大切にしていきたいと考えています。

白梅学園大学 宮田 まり子

幼児教育推進プロジェクト「ここすき！」は、保護者と子どもの良好な愛着形成の下、子どもたちが主体的に学び、生き抜く力を育むために、国立市全体で連携して乳幼児期における非認知能力を育成する取組です。国立市全体の幼児教育環境の向上を目的とした子ども政策の最重要施策です。そのため、各幼児教育施設や幼児教育関係者にとどまらず、保護者・地域住民など「まちぐるみ」で幼児教育を理解し、様々な場面・場所において、幼児教育を「学ぶ」・「触れる」・「参加する」・「対話する」といった機会を提供することが大切です。子どもたちが将来の夢の実現に向かって生きる力を身に付けられるよう、地域ぐるみ、まちぐるみで子どもたちを育てる環境を整えていくための努力をしてまいります。 国立市子ども家庭部児童青少年課 「ここすき！」

発行 国立市幼児教育推進プロジェクト「ここすき！」
国立市子ども家庭部児童青少年課保育・幼稚園係
国立市富士見台2-38-5 TEL 575-3224 中央児童館
監修 白梅学園大学 宮田まり子

ここすき！

子育てひろば「ここすき！」が大切にしてきたもの

1歳児の親子を対象に、親子がそれぞれ楽しく過ごせる場、また行きたくなる場をめざして開所しています。ここでは、子どもは自分の好きな遊びを見つけ、じっくり遊び、保護者は子育て中のさまざまな思いを語り合っています。お互いにコミュニケーションを深め合う場であり、子どもたちは社会性が身につけていきます。たくさんの人からほめられ、認められることで自己肯定感が育ち、保護者の皆さまもそんな子どもたちをあたたかいまなざしでみつめています。



つぼみぐみ



わかばぐみ

国立市

子育て・子育て応援紙

0.1.2.歳児の毎日 「ここすき！」

「ここすき！」 ひろばでの 参加者の感想

「ここすき！」に
行ったら「電車であそ
ぼう！」や「〇〇体操やり
たい！」と思ったり、
行く日の朝、連絡ノート
を準備していると子ども
が「ここすき！」に行く
ことがわかって、「ここす
き！」に行こう！！とい
います。

言葉を話せなく
ても、こちらが想像
するよりもはるかに
多くの事を複雑に
**理解できている
のだと分かった。**

子ども向けの活動
の場では、大人の膝に
座っていてじっとし
ている子でしたが、こ
こすき！では離れて自
分で**好きな場、遊びを選
んでいます。**

靴下を脱いだり
バッジを選んだり
すると「脱げたね」
「選べたね」「すご
い」とほめられてうれ
しくて自分で拍手をし
ます。家族以外にも**ほめ
られる場**ができました。

私と子どもといった
大人と1対1の時には
見られなかった**新た
な面がみられました。**
例えば、友だちのあそ
ぶ姿をみて、まねして自
分もやってみたいけれ
ど、同じようにできず、
くやしくて泣いたこと
がありました。

そばにいる子のおも
ちゃを使ってしまっ
たり、欲しいおもちゃ
をとってしまったりし
ていましたが、少し
ずつ「ジュンバン
(順番)」と言って、**貸
したり、待てたり**する
ようになりました。

笑顔で子育て
を楽しめる
イメージが
つかめた

まだ赤ちゃんだ
と思っていたが、
できることがたく
さんあった

半年間、週2回、
親子で参加

家以外にも
安心できる場が
あると感じた

親の自分が
意識すべきこと
がわかった

他のお子さん
を見て、全員個
性もバラバラだ
と気づいた

一人の人間と
して尊重して
接することが
大切と知った

ここすき！スタッフの声

家庭には居なかった“友だち”という存在があらわれ気になります。友達の持っている姿に興味関心をもって、自分もやってみたいと挑戦して、できた楽しさやうまくできなかったくやしきなどいろいろな感情が芽生えます。

ここすき！の広場では個別に一人ひとりのシールがあります。バッジや連絡ノート、自分の物を出し入れするロッカーに、貼ってあります。自分の居場所があると安心でき、安心すると活動範囲も広がります。また、自分でやろうと思えたことは自信がもて、さらにほめられることで次への意欲につながります。